

第 33 回同窓会総会資料

平成 29 年 8 月 19 日 (土)

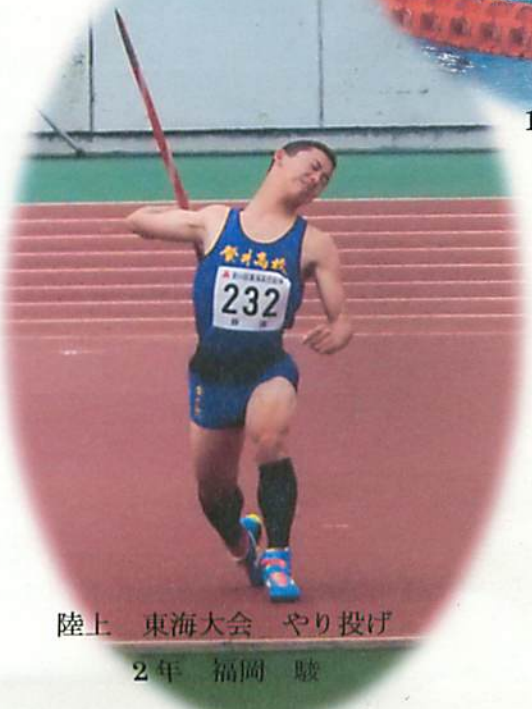
- 1 同窓会規則
- 2 役員一覧表
- 3 事業報告及び決算報告
- 4 事業計画 (案) 及び予算 (案)
- 5 部活動報告
- 6 同窓会会報第 22 号の 1



袋井高校キャラクター「ロイッピー」



水泳 東海大会
1年 石川 奈樹



陸上 東海大会 やり投げ
2年 福岡 駿



陸上 東海大会 400m
3年 永井花歩



静岡県立袋井高等学校同窓会規則

第1章 総 則

第1条 本会は、静岡県立袋井高等学校同窓会と称し、本部・事務局を袋井市愛野 2446-1 静岡県立袋井高等学校内に置く。

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかると共に、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- 1.正会員 静岡県立袋井高等学校卒業生
- 2.特別会員 静岡県立袋井高等学校現職員
- 3.名誉会員 静岡県立袋井高等学校旧職員

第2章 事 業

第4条 本会は、目的達成のための次の事業を行う。

- 1.名簿、会報等の発行
- 2.母校と連絡連携、母校の後援
- 3.母校の名誉を高めた会員及び在校生の顕彰
- 4.正会員、特別会員及び名誉会員の弔慰
- 5.その他、必要と認める事業

第3章 役 員

第5条 本会は、次の役員を置く。

- 1.名誉会長 1名
- 2.会 長 1名
- 3.副会長 若干名
- 4.理 事 各期2名、特別会員若干名
- 5.評 議 員 各学級2名
- 6.監 事 2名
- 7.庶務・会計 4名（正会員・特別会員から2名ずつ）

なお、本会に顧問を置くことができる。

第6条 役員任期は2年とし、その選出方法は次の通りとする。

- 1.名誉会長には、母校校長を推薦する。
- 2.顧問は、会長が推薦する。
- 3.会長、副会長、監事、庶務・会計は理事会が推薦し、総会の承認を得て決定する。

4.評議員は各クラスの推薦により、理事は各期評議員の互選により選出し、会長が委嘱する。

第7条 役員任期は次の通りとする。

- 1.会長は、会務を総理し、本会を代表する。
副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
- 2.庶務・会計は、本部・事務局で会務を整理するとともに、母校との連絡にあたり、監事は、本会の会計を監査する。
- 3.評議員は、各クラス会員を、理事は各期を代表し、本部と各会員の連絡の要となり、本会事業の推進をはかる。
- 4.会長が交代する場合 会長は、借入金の未償還元金の保証人になる。

第4章 会 議

第8条 本会の会議は、総会、理事会、評議員会とし、会長が招集し議事を進行する。各会議の議事は、出席者の過半数をもって決定する。

第9条 総会は、毎年1回開催し、会務並びに会計の報告及び計画等について審議決定する。

第5章 会費および会計

第10条 本会の会費および事業費は、会費、寄付金その他をもって充てる。

- 1.正会員は入会の際、会費として終身会費15,000円を納入するものとする。
- 2.本会の会計年度は毎年6月1日に始まり、翌年5月31日に終わる。

第6章 補 則

- 1.本会則は、昭和60年12月1日より実施する。
- 2.第4条4項の弔慰規定は別に定める。
- 3.その他、特別の事態が生じたときは、理事会にて審議する。
- 4.規則一部変更（第5章第10条1）平成5年2月22日から施行する。
- 5.規則一部追加（第3章第7条4）平成26年3月15日から施行する。
- 6.規則一部追加（第1章第1条）平成28年9月1日から施行する。

同窓会役員一覧

平成29年3月1日現在 13,174人

会 長 鈴木 康之 副 会 長 荒井 貞行 庶務・会計 柴田 祐治 監 事 鈴木 浩子 鈴木 明 理事 各期2名(下表太字) 牧田 真(特) 久野 正勝(特) 評 議 員 各HR2名 上段 同窓会誌通信員 下段 名簿係

Table with columns for member categories (31HR to 30HR) and names. The table lists 39 rows of members, each with their name and category. The categories are: 31HR, 32HR, 33HR, 34HR, 35HR, 36HR, 37HR, 38HR, 39HR, 30HR, and 女子. The names are listed in Japanese characters.

事業報告

(1) 会務報告

*会計年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで

28. 6. 4 理事・評議員会
8. 20 総会
29. 6. 3 会計監査

(2) 事業報告

- 会員名簿の発行及び作成（平成28年7月発行）
- 基金積み立て
- 部活動援助（陸上）
- 卒業記念品の贈呈（証書ホルダー）
- 全国大会等生徒派遣基金援助（野球バス代）

(3) その他

年	月	日	内 容 等
28	8		全国大会等生徒派遣基金設立委員会発足
29	2	28	同窓会入会式を挙行（新評議員との顔合わせ）
	3	1	第39回卒業証書授与式へ参加
	4	7	第42回入学式へ参加
	4	21	後援会理事会へ参加
	5	16	袋井高校PTA・後援会総会へ参加

平成28年度 袋井高校同窓会会計決算書

収入総額 5,602,101 円
 支出総額 5,071,207 円
 差引残額 530,894 円

平成29年度へ繰越

収入の部

(単位: 円 △: 減)

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B-A)	備考
終身会費	4,785,000	4,770,000	△15,000	15,000円×318名
雑収入	114	60,215	60,101	預金利息 名簿代 ストラップ等売り上げ代
繰越金	771,886	771,886	0	平成27年度より繰越
合計	5,557,000	5,602,101	45,101	

支出の部

科目	予算額	流用増減額	予算現額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (A-B)	備考
会務費	1,120,000	0	1,120,000	706,088	413,912	
会議費	70,000	0	70,000	32,749	37,251	理事・評議員会経費
慶弔費	50,000	0	50,000	5,000	45,000	香料
事務費	1,000,000	0	1,000,000	668,339	331,661	郵送料、上質紙、封筒等
事業費	1,200,000	0	1,200,000	1,165,119	34,881	
教育助成費	300,000	△90,000	210,000	206,264	3,736	証書ホルダー、部活大会祝金等
会報発行費	0	100,000	100,000	84,595	15,405	会報第22号
新会員登録費	0	0	0	0	0	
賭費	900,000	△10,000	890,000	874,260	15,740	HP更新費・総会・クラス会補助等
支払準備金	300,000	0	300,000	300,000	0	
支払準備金	300,000	0	300,000	300,000	0	定期預金
積立金	2,900,000	0	2,900,000	2,900,000	0	
積立金	2,900,000	0	2,900,000	2,900,000	0	返済金
予備費	37,000	0	37,000	0	37,000	
予備費	37,000	0	37,000	0	37,000	
合計	5,557,000	0	5,557,000	5,071,207	485,793	

支払準備金会計

(単位: 円 △: 減)

区分	金額
前年度繰越金	2,810,030
利息	314
本年度積立金	300,000
名簿代	△1,282,500
応援バス代	△1,000,000
一般会計へ	△25,992
振込手数料	△1620
合計	800,232

積立金会計

(単位: 円 △: 減)

区分	金額
前年度繰越金	4,039,827
利息	461
本年度積立金	2,900,000
返済金	△2,210,575
懇親会補助	△60,000
応援バス代(立替分)	△1,000,000
合計	3,669,713

(単位: 円)

内訳

種別	金額
定期預金	1,240,409
普通預金	2,429,304
合計	3,669,713

榎緑館借入金残額
12,000,000円

(監査報告)

上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。
 平成29年6月3日

袋井高校同窓会監事

鈴木 浩子 ㊞ (印影省略)

鈴木 明 ㊞ (印影省略)

事業計画 (案)

(1) 会務関係

29.	5.27	理事・評議員会
	8.19	総会

(2) 事業関係

- 会員名簿の作成・発行
- 基金の積み立て
- 部活動援助
- 会報発行及び準備
- 卒業記念品の贈呈
- 母校の名誉を高めた会員の顕彰
- 全国大会等生徒派遣基金援助

(3) その他

- 学校側主催の各行事への参加

(案)
平成29年度 袋井高校同窓会会計予算書

収入総額 5,316,000 円
支出総額 5,316,000 円
差引残額 0 円

収入の部

(単位:円 △:減)

科 目	本年度予算額(A)	昨年度予算額(B)	比較増減額(A-B)	備 考
終身会費	4,785,000	4,785,000	0	15,000円×319名
雑収入	106	114	△8	預金利息
繰越金	530,894	771,886	△240,992	平成28年度より繰越
合 計	5,316,000	5,557,000	△241,000	

支出の部

科 目	本年度予算額(A)	昨年度予算額(B)	比較増減額(A-B)	備 考
会務費	1,350,000	1,120,000	230,000	
会議費	50,000	70,000	△20,000	総会、理事・評議員会経費
給料・手当	600,000	0	600,000	同窓会職員給料
慶弔費	50,000	50,000	0	会員の慶弔
事務費	650,000	1,000,000	△350,000	通信費等
事業費	1,100,000	1,200,000	△100,000	
教育助成費	200,000	300,000	△100,000	卒業記念品、部活大会祝金等
会報発行費	0	0	0	
新会員登録費	0	0	0	
諸費	900,000	900,000	0	HP更新料、総会・クラス会補助等
支払準備金	300,000	300,000	0	
支払準備金	300,000	300,000	0	名簿作成
積立金	2,560,000	2,900,000	△340,000	
積立金	2,560,000	2,900,000	△340,000	返済金
予備費	6,000	37,000	△31,000	
予備費	6,000	37,000	△31,000	
合 計	5,316,000	5,557,000	△241,000	

※ 科目間の流用を認める。

支払準備金会計

(単位:円 △:減)

区 分	金 額
前年度繰越金	800,232
利息	268
本年度積立金	300,000
合 計	1,100,500

積立金会計

(単位:円 △:減)

区 分	金 額
前年度繰越金	3,669,713
利息	287
本年度積立金	2,560,000
返済金	△2,180,000
合 計	4,050,000

(単位:円)

区 分	金 額
後援会へ貸出金	1,000,000

部活動報告

- ・ 野球部 第99回全国高等学校野球選手権静岡大会
袋井3-4三島南 1回戦敗退
- ・ サッカー一部 県大会出場(17年連続) ベスト16
- ・ 陸上部 女子400m 男子やり投げ 東海大会出場
- ・ 女子バレー部 県大会出場 ベスト8(創部初)
- ・ 水泳部 女子800m自由形 女子400m自由形 東海大会出場
女子200mバタフライ 男子400m個人メドレー
女子400mメドレー 県大会出場
- ・ 弓道部 男子個人戦・女子個人戦 県大会出場
- ・ 男子テニス 県大会出場 ダブルス ベスト32

袋井高校同窓会報 第22号の1

平成29年8月19日

「何処にいようと」

十三期 中川直美

高校時代、私の好きな科目は、英語と国語、まさに文系でした。将来は、好きな英語を生かす仕事をして海外に住みたいという気持ちをもっていました。私の記憶が確かなら、卒業アルバムに、「世界に羽ばたくぞ」と書いたと思います。

袋井高校卒業後、進学、留学、就職と、あつという間に月日は二十五年以上流れてしまいました。

現在は、スペインのバルセロナに夫と息子と三人で暮らしています。バルセロナ日本人学校に勤務し、今年で六年になります。

バルセロナはカタルーニャ地方にあります。こちらに来て知ったことですが、カタルーニャ地方では、カタルーニャ語が話されているということです。カタルーニャ語はフランス語、イタリア語などによく似ていると言われています。こちらでは、私たちが言う、スペイン語はカステイリヤ地方の言葉、カステイリヤノと言われています。カタルーニャ語とは異なる言語です。来た当初は、言葉がほとんど分からない状態でしたから、この二つも区別もつきませんでした。バルセロナの標識や道路標示などの多くはカタルーニャ語で書かれていたり、バスや電車のアナウンスもカタルーニャ語でされたりするため戸惑うことも度々ありました。

夫はバルセロナ出身です。もちろん彼は、自分の家族や友達とはカタルーニャ語で話しています。私とは、英語、日本語、スペイン語とで会話をしています。

息子が生まれたときに、最初の検診で、父親と母親の言語が異なる場合、通常と比べて言葉を話し始める時期が遅いかもしいれないと言われました。息子との会話をどうするかを夫婦で話し合いました。夫はカタルーニャ語、私は日本語で会話することになりましたが、スペイン語（カステイリヤノ）で話す人として息子の身近にいたのは、アイランド人の彼の叔母くらいでした。スペインでの育児休暇は出産日から教えて十六週間です。その間は毎日、日本語で話しかけたり、すやすや寝ている息子にも本の読み聞かせをしたりしました。育児が終わって仕事に復帰するために保育園に預けることになったからは、息子といられる時間もかなり減ってしまいました。とにかく日本語で話すこと、読み聞かせを可能な限りするようにしています。

息子は三歳になり、日本語とカタルーニャ語、スペイン語、英語の区別がつくようになりました。話す相手によって使い分けもできています。しかし、彼にとって優勢な言語はやはりカタルーニャ語のようです。私とは日本語で会話しますが、日本語の語彙数が少ないためカタルーニャ語が混じってしまいま

す。最近、日本に行った時のこと、日本語ばかりの日々に疲れたのか、息子がふと「僕はカタラン（カタルーニャ人）だからカタルーニャ語で話す」とカタルーニャ語で言いました。

日本に滞在中、彼の口から日本語がたくさん出てくるようになったと喜んでいた私は、これを聞いて驚き、またショックでもありました。

息子の教育に関して、何が正しいのかは分かりません。しかし、今私たちが出来る限りのことを精一杯してあげたいと考えています。日々の忙しさに、ついつい楽な方へと流されてしまいがちですが、日本語を全く話さなかった息子が、ある日、ふと突然に話し出す現象を目の当たりにして、小さなことをコツコツと積み重ねていくことが不可欠だと痛感しています。また、先輩ママ達から、子供への日本語教育についての話を聞くことは、励みになります。やはり、どこのご家庭でも親子でかなりの努力をされていることが分かります。また、子供が成長するにつれて事情も複雑になってくるようです。

将来、息子がどんな路に進むのかはまだ分かりませんが、いつか日本語が彼のために役立つと考えると考えています。

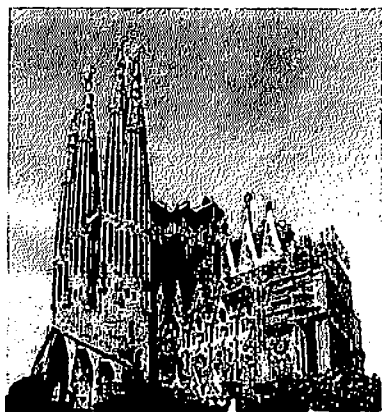
息子が生まれる前は、こちらに住む日本人との付き合いはあえて無くてもよいとさえ思っていました。しかし異国の地で子育てをし

ていく上で、日本人ママ同士の繋がりはとても大切だと感じています。

袋井高校を卒業してから、長く地元を離れていましたが、海外に住む今、日本で私の帰る場所といえば実家のある袋井です。帰省の際、バルセロナ空港から最終的に実家の最寄り駅袋井駅に降り立つわけですが、時折、袋井高校生の姿を見かけることがあり、とても懐かしい気持ちになります。

現在、日本各地、世界中で同窓会員の皆さんが活躍されていることと思います。どこにいても会員同士が繋がりが合え、同窓会がより一層、盛り上がっていくことを祈願しております。

サグラダ・ファミリア



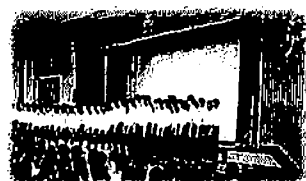
スペイン・バルセロナ在住の十三期生中川直美さんに原稿を依頼しましたところ心よく引き受けてくださいました。会報発行日には間に合わなかったのですが、このような形で発行させていただきました。



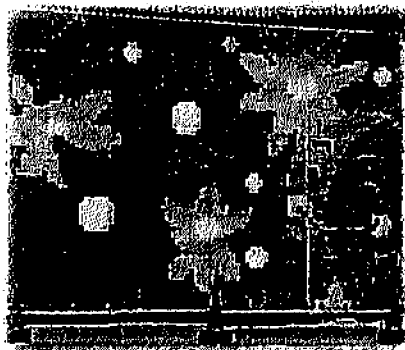
平成29年度緑風祭

テーマ ～華～

オープニング



書道部



13HR



ダンス部



吹奏楽部



HR展



HR展

計報

平二十九・四

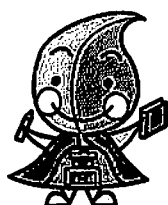
小田 直美先生

ご冥福をお祈りいたします。

平成二十九年同窓会より年次当番制で総会・懇親会を開催していきます。

本年度は、十六期生が担当し、盛大に開催されます。次年度は、十七期生が担当です。五十周年まで繋いでいけたら大変うれしく思います。

平成三十七年度は、五十周年です。同窓生みんなで五十周年を盛り上げて行こうではありませんか。



「平成」幕開けの袋井高校

小野 恵美子

天皇陛下が退位をお考えとのこと、「平成」もあと少しで終わりそうです。私が袋井高校に赴任したのは平成元年、一つの時代の区切りを感じるどころです。赴任当時袋井高校も開校以来10年が経っていましたから、創立のころとはだいぶ様変わりしていたことでしょう。創立の当初からお勤めになっていた先生方が、当時の様子を熱く語ってくださったものです。先生も生徒も一生懸命の創立期だったことが偲ばれました。

私が勤務したころは第二次ベビーブームのころで、生徒がたくさんいました。多いときは1学年10クラス450人余、エネルギーに溢れた時代でした。今でも、全校はおろか、自分の担任学年の生徒さえ覚えきれなかったことを悔やみます。今のように少子化が言われるとは考えられませんでした。春のお茶摘み、高の字山の草刈り、南庭の掃除、どれも創立当初の皆さんが苦勞して作り残していつてくださったものです。いろいろな行事を通して質実剛健の気風を養いました。木曜日の特別講座のテスト、採点して返せばすぐ追試と、生徒は勿論のこと先生も追いかけられたものです。夏の学習合宿、補習、模擬試験その合間に部活動と、生徒はよく頑張ってくれました。とにかく人数が多いので、大学入試は高倍率、浪人しても浪人生はどんどん溜まっていくし、現実には日本中どこまでも受験しに行くという時代でした。従って授業は厳しく、受験を意識せざるを得ない状況でした。私が担当した英語もまさに受験科目、英語Ⅰ、Ⅱ、リーディング、ライティングと大変な科目を複数受講し、楽しさとか考えていられない現実がありました。途中指導要領の改定があり、オーラルという科目ができて、「これはまさに新しい英語、実技科目なんだ」と認識させられました。文科省の研究指定を受け「エコパスタジアム」の建設は是か否かというテーマで体育館を会場に大勢の観客の見守る中、ディベートをしたことが思い出されます。(もうすでに次の改定があって、今や授業はオールイングリッシュの時代です。)いろいろ苦勞した中にも生徒の皆さんは各自よく努力して随分とバラエティに富んだ進路を実現してくれました。そして、その当時の教え子も入学以来30年近く経つわけで、今や立派な社会人、社会の中枢を担ってくれています。その彼らが創立50周年の節目を準備してくださっているとのこと、頼もしく思います。あちこちで高校の統廃合もありますが、今や立派に地域に根付いている様を嬉しく思います。